

札幌市小学校における英語教育推進のすすめ2 —小学校外国語の適切な学習評価に向けて—

小学校外国語の学習評価におけるポイント

(1) 学習評価について

小学校5・6年生の外国語における学習評価は、他の各教科等と同様に以下の2点が大切です。

- ・ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ・ 子どもの学習改善につながるものにしていくこと



(2) 観点別学習状況の評価の観点について

小学校5・6年生の外国語における観点別学習状況の評価の観点は、他の各教科等と同様に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されます。

(3) 外国語における評価規準について

英語の目標は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の五つの領域で示されています。そのため五つの領域ごとの評価規準に基づき各単元の評価規準等を作成する必要があります。

五つの領域ごとの観点別評価の考え方

	聞くこと	読むこと	話すこと		書くこと	観点別 評価	評価
			[やり取り]	[発表]			
【知】						A・B・C	1・2・3
【思】						A・B・C	
【態】						A・B・C	

指導要録に記載
(学年末)



年間を通じて全ての領域・観点を見取ることができるよう、上の考え方を基に評価を行うことが大切です。

これまで外国語活動で大切にしてきた、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成や英語によるコミュニケーション能力の基礎を養うために、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」という言語活動について今後もより一層充実を図っていく必要があります。



これから始まる小学校5・6年生の外国語の学習評価について適切に取り組むために、三つの事例を紹介します。

※札幌市では、令和元年度から市立の全小学校において、校内の英語教育コーディネーター役となる英語専門教師が位置付いています。

振り返りカード等の効果的な活用と観点別学習状況の評価について


～第5学年 We Can! 1 Unit 6 I want to go to Italy. (8時間)の振り返りカード等の例～

振り返りカード等の活用

振り返りカード等は、教師の指導改善のため、子どもの学習改善のためなどのねらいに沿って、教師が次時の指導に生かしたり、子どもの自分自身の成長の実感につなげたりできるようにすることが大切です。

教師が【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点別学習状況の評価として振り返りカード等を活用する際は、振り返りカード等は子どもの自己評価であることを踏まえ、行動観察やその他の学習カード等と合わせて適切に学習評価を行うことが大切です。

振り返りカード等の項目と主なねらい

設定する項目例と主なねらい (例)	
毎時間行う振り返りカードの項目例	<p>○「I want to ~.」を使って自分のしたいことを友達に伝えることができた。(3・2・1の3段階)</p> <p><主なねらい：教師の指導改善></p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと [やり取り]」の【知識・技能】の評価資料の一部として用い、「I want to ~.」を使って自分のしたいことを友達に伝えているか、<u>行動観察等と照らし合わせて</u>、子どもの実態把握や学習評価を行う。 
単元末に行う振り返りカードの項目例	<p>○行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりすることができた。(3・2・1の3段階)</p> <p><主なねらい：教師の指導改善></p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと [やり取り]」の【知識・技能】の評価資料の一部として用い、<u>行動観察等と照らし合わせて</u>、活動内容や使用する英語表現を見直し、児童が必然性をもって活動に取り組むことができているか等、子どもの実態把握や学習評価を行う。
	<p>○単元全体を通して、できるようになったことやわかったこと、これからさらにできるようにしていきたいことなどについて書きましょう。(記述)</p> <p><主なねらい：子どもの学習改善></p> <p>自分の学びを振り返り、達成感をもったり、次の学習への意欲を高めたりする。</p>

毎時間に行う振り返りカード例

Date: month/day () / () / ()

Unit 6 I want to go to Italy. 

8時間

Class () Name ()

Number () ()

①<今日のめあて>

②<めあての達成度> 3 ・ 2 ・ 1

③<学んだ英語表現>

④「I want to ~.」を使って自分のしたいことを友達に伝えることができた。 3 ・ 2 ・ 1

⑤「友達に行きたい国についてよく分かったこと」や「友達の良いところ、がんばっているところ」を書こう。

単元末に行う振り返りカード例

Unit 6 I want to go to Italy.

できることにつけましょう。
(例) とてもよくできた→3 できた→2 →がんばった→1

行きたい国や地域について、自分の考えを整理して伝え合ったりすることができた。 [3・2・1]

行きたい国や地域について、自分の考えや英語表現を英語で書き出すことができた。 [3・2・1]

積極的に行きたい理由を説明したり、その理由もきめながら自分から意見を述べたりすることができた。 [3・2・1]

○単元全体を通して、できるようになったことやわかったこと、これからさらにできるようにしていきたいことなどについて書きましょう。



子どもが振り返りカード等を記入する際は時間がかかる場合があります。振り返りカード等を毎時間用いるか単元ごとに用いるかについては、他の言語活動などとの時間配分を十分考慮して行うことが大切です。

Q1 「CAN-DO リスト」という言葉を聞いたことがあるのですが、どのようなものですか。

A 学習指導要領が示す目標に基づいて「英語を用いて何ができるようになるのか」という学習到達目標を設定すると、子どもに多くの効果があります。上の項目のように「～を伝え合うことができた。」等、具体的にリストの形で学習到達目標を示したものが「CAN-DO リスト」です。「CAN-DO リスト」を子どもと共有することで教師にとっては授業のねらいが明確になるとともに適切な指導を行う指標とすることができます。子どもにとっては「～ができるようになりたい。」などの学習に対する意欲を高めたり、「～ができるようになった。」という達成感を得たりすることができ、更なる学習意欲の向上につながります。

新たに導入される「書くこと」における観点別学習状況の評価について

～第6学年 We Can! 2 Unit 7 My Best Memory（8時間）の単元における「書くこと」の学習活動の例～

「書くこと」の学習活動のポイント

- ① 音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書き写すこと。
- ② 単元を通じて少しずつ書くこと。
- ③ 「思い出アルバムを作るため」等の目的をもって書くこと。
- ④ 日本語と外国語（英語）の違いに気付き、語順を意識し語と語の区切りに注意して書くこと。

○本単元における「書くこと」の目的

小学校の一番の思い出についてその時の自分の気持ちなど、お互いの思い出を伝え合うために、英文等を書き入れたアルバムを作成する。

○「書くこと」の【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の評価規準例

- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のこと及び身近で簡単な事柄について、書いたりしている。【思考・判断・表現】
- ・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

○本単元における各時間の「書くこと」における英文例

各時間の「書くこと」の文例及び留意点

	本単元における子どもの書く活動の英文例	留意点
第3時	My best memory is (my school trip).	※()には、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句等から言葉を選んで書き写すようにする。
第4時	I went to the (mountains).	
第5時	I enjoyed (hiking).	
第6時	I saw (a bird). It was (cute).	

※第7時以降はこれまでに書き溜めた英文を基に小学校の一番の思い出について、その時の自分の気持ちなどを書き写したものを使って友達と交流していく。

My Best Memory

My best memory is my school trip.
I went to Otaru.
I enjoyed shopping.
I saw a beautiful music box.
It was wonderful!



発表する英文例

教師はあらかじめ、子どもが音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句等から最終的にどのような英文を書くことができるのか、またどのような交流ができるのかを想定して、授業に臨むことが大切です。



Q2 ペーパーテストで「書くこと」の学習評価はできるのですか。

- A 「書くこと」の【知識・技能】の評価規準例は、「英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。実際のコミュニケーションにおいて、大文字・小文字の活字体を書く技能を身に付けている。」となります。ペーパーテストを実施する場合は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について書いているか、相手に伝えるなどの目的をもって書いているか等、内容や取組の方法が評価規準に照らし合わせて適切であるかどうか十分考慮した上で取り扱う必要があります。

「話すこと [やり取り]」における観点別学習状況の評価について

～第5学年 We Can! 1 Unit 2 When is your birthday? (5/7時間)における「話すこと [やり取り]」の学習活動の例～

■ 「話すこと [やり取り]」の学習活動のポイント

- ①チャンツなどの活動を通して、少しずつ語句や基本的な表現に慣れ親しむこと。
- ②目的をもってやり取りをすること。
- ③伝えたい、知りたいという思いを基に、既習の英語表現等を使うこと。

○ 「話すこと [やり取り]」の【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の学習評価

- ・【思考・判断・表現】における学習評価は、場面や目的、状況などに応じて、子どもが実際に英語を使って、自分の気持ちや考えを伝え合う姿を見取ること。
- ・【主体的に学習に取り組む態度】における学習評価は【思考・判断・表現】の観点とともに見取ることが可能であること。
- ・記録に用いる評価は実現状況が把握できる単元の後半などの段階で行うこと。

○ 本時における「話すこと [やり取り]」の【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の評価規準例

- ・自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。【思考・判断・表現】
- ・自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、他者に配慮しながら、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて積極的に尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

○ 本時における子どものやり取りの事例における【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の学習評価について

子どものやり取りの例と学習評価例

C1 : When is your birthday?	C2 : December ...10th.
C1 : Do you like blue?	C2 : Yes. Blue!
C1 : Do you like baseball?	C2 : Baseball? No. No, baseball.

※上のやり取りでは、C2の子どもはC1の子どもの質問には答えているものの、C1の子どもに誕生日などのことについて尋ねてはいない様子が伺えます。このやり取りではC2の子どもに対する評価は【思考・判断・表現】の観点において、努力を要する状況と判断します。事後指導として、教師は見本を示しながら子どもが尋ねたり答えたりする場面を設定するなどして、C2の子どもの学習改善に努めます。改善の結果、場面などに応じてC2の子どもが尋ねられるようになるとおおむね満足できる状況と判断します。

【主体的に学習に取り組む態度】の観点については、C2の子どもに、自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりする目的に向けて、他者に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする意欲が見られた場合、おおむね満足できる状況と判断します。



作成委員

小学校英語専門教師配置事業
令和元年度研究推進校

- ・幌西小学校
- ・本町小学校
- ・本通小学校
- ・厚別通小学校
- ・西岡南小学校
- ・平岡南小学校
- ・石山緑小学校
- ・山の手小学校
- ・手稲東小学校
- ・手稲中央小学校

事務局

札幌市教育委員会教育課程担当課

制作・発行

札幌市教育委員会「札幌市小学校における英語教育推進のすすめ2」令和2年3月発行

印刷

小南印刷株式会社 札幌市中央区北9条西23丁目2-5